

札幌市における国際会議等 誘致の取組と現況について



2025年7月24日
札幌市

目次

1. コンベンション開催地としての札幌市の特徴・・・・・・・・・・ 1
(学術分野／重点産業分野／GX・金融分野)

2. 国際会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
(JNTO・ICCA基準／主な政府系国際会議)

3. 令和6年度に開催された国際会議での取組・・・・・・・・・・ 7

4. 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
(札幌市内の主なMICEエリア／札幌コンベンションセンター／
札幌産業展示場／札幌の主な宿泊施設／サステナブルなMICE都市・札幌)

コンベンション開催地としての札幌市の特徴①

1

(学術分野／重点産業分野／GX・金融分野)

【札幌市に強みのある学術分野】

地球惑星科学	感染症学
地球科学に関する論文被引用数：国内 2位 市内には、宇宙関連のベンチャー企業が集積 ●2023年8月 第35回国際電波科学連合総会（URSI GASS） *秋篠宮皇嗣殿下御臨席、日本学術会議共同主催	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 新型コロナウイルスをはじめとした人獣共通感染症に特化した世界初の研究機関でありWHOに協力
低温科学	獣医学・酪農学
北海道大学低温科学研究所 70年以上にわたる寒冷圏及び低温条件化における科学的現象の研究 ●2022年8月 第29回低温物理学国際会議（LT-29） *日本学術会議共同主催	動物・植物学論文被引用数：国内 3位 都市の中心部に58haの北海道大学札幌農場が広がり、獣医学・酪農学研究が盛ん ●2018年8月 第30回世界牛病学会（WBC）

※JNTO「Japan：Competitiveness in Academia and Industry – Introduction of Excellent Cities」より

【札幌市の重点産業分野】

観光 / 食 / 健康福祉・医療 / IT・クリエイティブ

【新たに誘致を強化していくGX・金融分野】

(GX8分野)

SAF / 水素 / 洋上風力関連産業 / 蓄電池 / 次世代半導体 /
電気及び水素運搬船 / 海底直流送電網 / データセンター

(金融)

【近年の主な国際会議】

2022年 9月：第22回国際真空学会（IVC-22）	<2,000人>
2023年 8月：第35回国際電波科学連合総会（URSI GASS）	<1,500人>
2024年 7月：第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議	<750人>
2024年 9月：Global Offshore Wind Summit-Japan 2024	<900人>
2025年 6月：OECC/PSC 2025	<650人>
<今後開催予定>	
2026年 7月：第14回寒地開発国際シンポジウム(ISCORD)	
2026年10月：国際防災シンポジウム（インタープリバント2026）	<500人>
2030年 : 第24回世界神経放射線学連盟シンポジウム	<2,000人>

コンベンション開催地としての札幌市の特徴②

2

(GX・金融分野)

■北海道・札幌市が目指す姿(GX金融・資産運用特区)



「脱炭素社会の未来を拓く北海道・札幌宣言」(2023年4月15日)

- G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合の開催の機会を捉え、脱炭素を通じてエネルギーの地産地消と道内経済の活性化、日本及び世界のGXに貢献していく宣言を発表。

「国家戦略特区」、「金融・資産運用特区」への指定(2024年6月)

【特区指定を活用し、北海道・札幌市が目指す姿】

- 資産運用会社等の金融機能を北海道・札幌に集積
- GX産業のサプライチェーン構築・雇用創出
- 日本の再生可能エネルギー供給基地の構築
- アジア・世界の金融センターの実現

北海道・札幌が有するポテンシャルの高さ

- 今後10年間で150兆円超ともいわれるGXの官民投資
- 国内随一の再生可能エネルギーのポテンシャル
- 都市と自然が調和した世界でも類を見ない魅力的な街

目指す姿



コンベンション開催地としての札幌市の特徴③

3

(GX・金融分野)

■我が国のGXをリードする北海道「投資ポテンシャル」

全国一の再エネポテンシャル

- 【風力発電】 全国1位
- 【太陽光発電】 全国1位
- 【中小水力発電】 全国1位
- 【地熱発電】 全国2位

海底直流送電網

＜広域連携系統マスタープラン＞

【必要投資額(概算)】

- ・北海道地域内増強
⇒約1.1兆円
- ・北海道～東北～東京(新設)
⇒約2.5～3.4兆円



次世代半導体

＜半導体・デジタル産業戦略＞

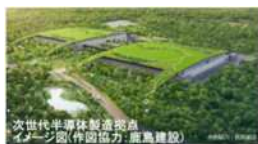
- ・全世界の出荷額

2020年約50兆円 ⇒ 2030年約100兆円

▼ラピダス社の立地決定

⇒総額5兆円規模の投資見込 (同社による)

⇒関連産業の立地表明が相次ぐ



Rapidus制作成資料



洋上風力関連産業

- ・45GW導入時の経済波及効果(経産省試算)

⇒2050年 約2兆円

- ・(参考)洋上風力産業ビジョン

⇒2040年に全国で45GW

データセンター

＜情報通信白書(総務省)＞

- ・日本のDCサービス市場規模 2022年約2兆円
⇒2026年 約3兆円

＜デジタルインフラ(DC等)整備に関する有識者会合「中間取りまとめ2.0」＞

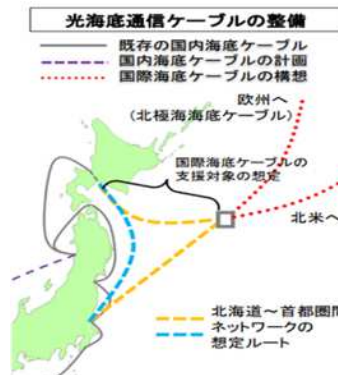
- ・北海道にデータセンターの中核拠点を優先的に整備

- ・ソフトバンク社が再エネ100%のデータセンターの立地決定

＜デジタル田園都市国家インフラ整備計画＞

- ・2025年度迄に日本周回ケーブルを整備、陸揚局も分散立地

※北海道では国際海底ケーブルの陸揚げ実現を目指している



SAF

＜GX実現に向けた基本方針＞

- ・製造技術開発、大規模実証、製造設備等への官民投資

⇒今後10年間で約1兆円【全国】

蓄電池

＜蓄電池産業戦略＞

- ・世界市場の推移
2019年約5兆円

⇒2030年 約40兆円【世界】

水素

＜水素基本戦略＞

- ・2030年導入目標300万tに加え、
2040年目標1200万t
2050年目標2000万t

・官民合わせて15年間で15兆円【全国】
のサプライチェーン投資計画を検討中

コンベンション開催地としての札幌市の特徴④

4

(GX・金融分野)

GX事業

と

金融機能

の誘致強化に係る札幌市の取組

GX事業の誘致強化



■「札幌海外企業受入ワンストップ窓口（STEP）」を開設

海外企業に対して、札幌への進出を検討している段階から定着に至るまで英語による継続的な伴走支援を実施

2つのチームでビジネス・生活環境を支援

<専門家チーム>



拠点設置支援
ビザ取得等手続き支援
ビジネスマッチング
生活支援

<士業チーム>



法務、税務、
ビザ手続き等



設置場所：北海道経済センタービル2階



金融機能の誘致強化



■一社）国際資産運用センター推進機構（JIAM）に加入（令和6年6月）

■GX事業及び金融事業に対する北海道税・札幌市税の税制優遇制度

（GX推進税制）を開始（令和7年4月1日）

■シンガポール、ニューヨーク、ロンドンにて海外プロモーションを実施

■日本経済新聞社・テレビ北海道と共に「グローバルGX・金融会議札幌」を開催

■札幌証券取引所に「北海道ESGプロボンドマーケット」を開設予定



Singapore FinTech Festival

国際会議の開催状況①

(JNTO・ICCA基準)

5

【国際会議開催件数（2017年～2023年）】

	2017年	2018年	2019年	2022年	2023年	
ICCA基準	24件	20件	25件	<u>15件</u>	<u>17件</u>	<u>国内5位</u>
JNTO基準	116件	109件	102件	<u>23件</u>	<u>43件</u>	<u>国内11位</u>

【ICCAランキング（2024年）】

都市名	件数	国内順位	アジア・パシフィック	世界順位
東京（23区）	97件	1位	4位	16位
京都市	49件	2位	11位	42位
大阪市	27件	3位	18位	94位
札幌市	24件	4位	21位	105位
福岡市	21件	5位	25位	117位
名古屋市	14件	6位	31位	167位
横浜市	14件	6位	31位	167位



【基準項目】	ICCA（国際会議協会）基準	JNTO基準
【主催者】	国際機関・国際団体（各国支部を含む）または国家機関・国内団体（各定義が明確ではないため、民間企業以外は全て）	
【参加者総数】	50名以上	
【参加国】	3か国以上で会議の持ち回りがある （2か国間会議は除外）	日本を含む3か国以上
【その他】	定期的に開催される （1回だけ開催されたものは除外）	開催期間：1日以上

国際会議の開催状況②

(主な政府系国際会議)

6

開催年月	会議名	参加者数 (うち海外参加者数)
2010年6月	2010年日本APEC貿易担当大臣会合及び関連会合	2,500人(2,200人)
2012年6月	第27回アジア消防庁協会総会国際電気通信連合	528人 (71人)
2013年7月	無線通信部門 SG5 WP5D 第16回会合	185人 (155人)
2013年11月	第13回日中韓特許庁長官会合	225人 (25人)
2013年11月	第4回日インドネシア交通次官級会合	70人 (40人)
2014年2月	国際電気通信連合電気通信標準化部門 第16研究委員会 (ITU-T・SG16会合)	232人 (146人)
2015年9月	第7回日・ASEAN諸国防衛担当局次官級会合	50人 (47人)
2018年1月	第3回日・ASEAN航空協定交渉会合	34人 (25人)
2019年12月	第7回中小企業協力に関する日露会合	103人 (22人)
2023年4月	G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合 	約650人 (約270人)

▼ 2010 日本APEC貿易担当大臣会合



▼ 2023 G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合



令和6年度に開催された国際会議での取組①

■ ASEANTA年次総会及び関連事業の開催

2024年5月8日～11日の期間中、ASEAN地域の観光業界幹部が集まる年次総会を開催。関連事業として、ユニークベニユーを活用した情報交換会、エクスカーション、シンポジウムを実施。

ユニークベニユーを活用した情報交換会 ※ 観光庁実証事業

国指定重要文化財「豊平館」において、アイヌ文化を活用し北海道ガストロノミーを提供するレセプションや、札幌コンサートホール「kitara」において、大ホールのステージ上でのオクテット鑑賞、エントランスホールでの特別な空間演出によるレセプションを実施



豊平館

北海道の自然、森をイメージした空間を創造



札幌コンサートホール「Kitara」

「My Orchestra」プログラム



花 x 音楽 x 光の協演による特別な空間を創造

ASEAN-札幌/日本MICEリーダーズシンポジウム

日本・ASEANの観光・MICEに関する共通の課題や今後の展望について、ASEANTA会長、日本政府観光局による基調講演、パネルディスカッションのほか、地元MICE事業者とのネットワーキングを開催



札幌市内近郊エクスカーション

札幌・北海道ならではの、桜と雪を同時に楽しめる季節の魅力を感じていただくため、南区にある「小金湯さくらの森」等で桜を鑑賞した後、札幌国際スキー場で雪を体験。その他、大倉山ジャンプ競技場でのオリンピッククメダリストによる案内等を実施



札幌国際スキー場

令和6年度に開催された国際会議での取組②

■第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議（GEWEX-OSC2028）

日本初開催となる「全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議」が、2024年7月8日～12日に札幌市で開催。水循環科学や気候変動に関する課題等が議論されたほか、エクスカーション、市民講座を実施。

テクニカルツアー ※ 観光庁実証事業

札幌市を洪水から守り、水の安定供給によって都市の発展に重要な役割を果たしている豊平峡ダムを視察。ダムを貯蔵施設として活用した地場産ワインの試飲会等も開催し、ダムが単なるインフラ施設ではなく、流域の産業と一体となって活用されている事例を紹介。



豊平峡ダムの視察



豊平峡ダムを貯蔵施設として活用し
生産されたワインの試飲

市民講座

気候変動をテーマに専門家による講演や、地元の高校生による研究成果の発表、学識者・大学生・高校生によるパネルディスカッションなどを開催。



専門家による講演



気象制御トークイベント

<参考> 札幌市内の主なMICEエリア

9

【北海道大学】

- ・学術交流会館（ホール310席、196席ほか）

【大通公園周辺】

- ・市民交流プラザ（ホール2,300席ほか）
- ・カナモトホール（ホール1,500席ほか）
- ・札幌市教育文化会館（1,100席ほか）
- ・札幌プリンスホテル（大宴会場1,000㎡ほか）
- ・グランドメルキュール札幌大通公園（旧ロイトン札幌、ホール1,607㎡ほか）

【札幌コンベンションセンター周辺】

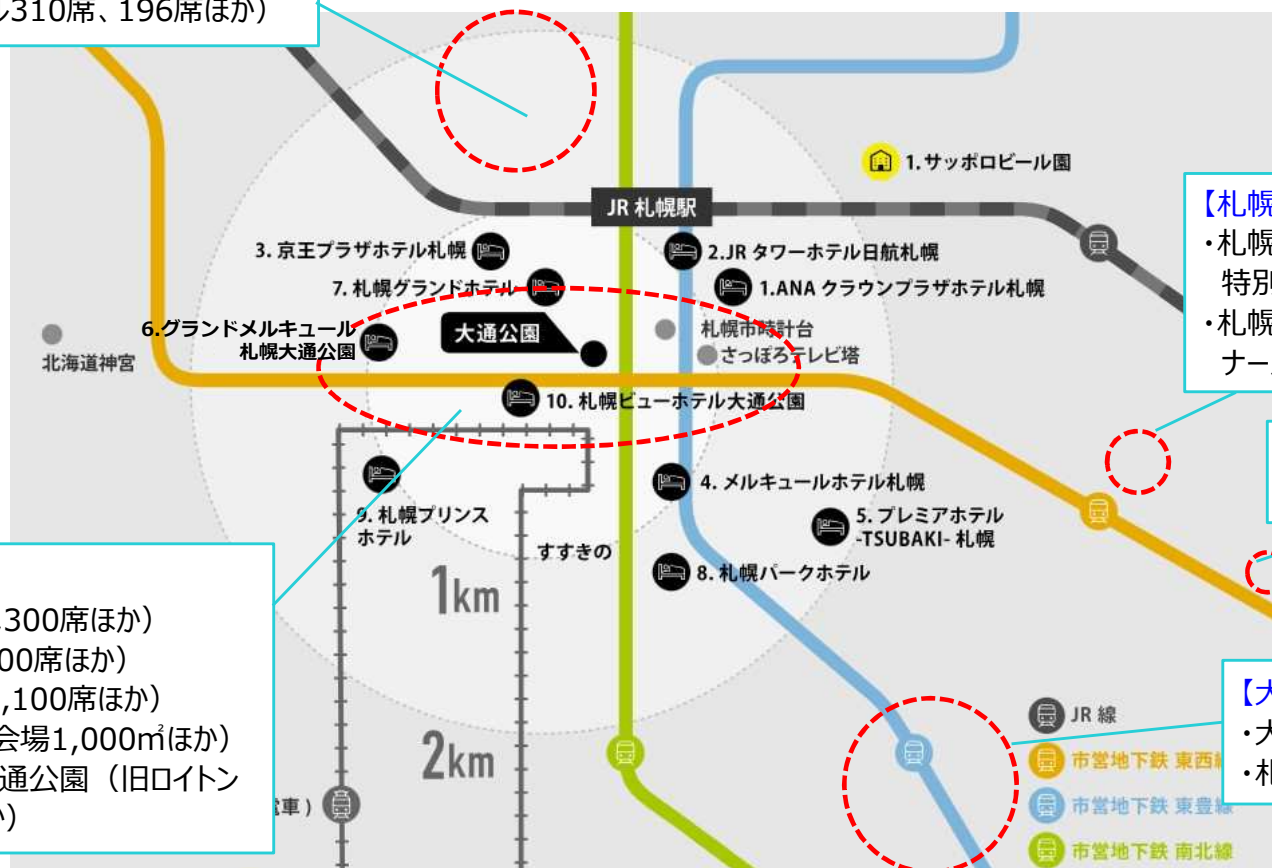
- ・札幌コンベンションセンター（大ホール2,607㎡、特別会議場692㎡、15の中小会議室）
- ・札幌産業振興センター（252㎡など13のセミナールーム）

【新さっぽろ副都心周辺】

- ・ホテルエミシア札幌（ホール764㎡ほか）

【大和ハウス プレミストーム周辺】

- ・大和ハウス プレミストーム（55,000㎡）
- ・札幌産業展示場（15,000㎡）R9秋予定



<参考> 札幌コンベンションセンター

10

【施設概要】

- ・敷地面積 41,019㎡、延床面積 20,310㎡
- ・大ホール（2,607㎡）、特別会議場（692㎡）、
中ホール（564㎡）、小ホール（193席固定）、中・小会議室（15室）

- 2003年6月の供用開始以降、**多くの政府系会議や国際会議、学会を開催**
地元催事から国内外の学会・インセンティブ等を受入れ、**高稼働率を維持**
（主な実績）2010APEC貿易大臣会合、ATWS2023、2023ASEAN交通次官級会合、
URUSI GASS2023（第32回国際電波科学連合総会）

- 感染症対策の国際認証「GBAC STAR™」取得**（2021年12月～）
国際衛生供給協会（ISSA）の感染症予防対策に関する部門である
グローバルバイオリスク諮問委員会（GBAC）による国際認証



- 再エネルギー・省エネルギーの推進**

- ・**再生可能エネルギーの導入**
- ・屋上への**太陽光パネルの設置**（年間発電量約12万kWh）
- ・夜間に外気温が低くなる地域特性を活かし、夏季は夜間に窓を開放し館内の気温を下げ、
日中の冷房利用を抑制
- ・**窓への遮熱フィルムの貼付**
- ・**LEED O+M認証（申請中）**



↑外観



特別会議場
⇒

<参考> 札幌産業展示場

11

■ 札幌産業展示場



◆ 施設概要

- ・ 展示ホール（天井高10m） 約15,000㎡
1,500~2,500㎡の7つに分割可能
- ・ 各展示ホールに付随する主催者用事務室（7室）、
スタッフ用控室（7室）
- ・ 会議室（10室）
- ・ 地下鉄「福住」駅より徒歩11分

2027年9月供用開始予定

環境配慮を重視した展示場

- ・ 「環境首都・札幌」にふさわしい環境配慮型のサステナブルな展示場として「**Nearly ZEB**」（**75%以上の省エネ率**）の実現を目指している
- ・ **屋上や外壁へ太陽光パネルを設置する**ほか、自然採光、自然通風、躯体蓄熱、地熱利用など再生可能エネルギーを積極的に活用



<参考> 札幌の主な宿泊施設

12

■ 市内主要ホテル

【大通公園エリア】

- ・札幌プリンスホテル（587室）
- ・グランドメルキュール札幌大通公園（291室）など



▲ 札幌プリンスホテル

【すすきの・中島公園エリア】

- ・札幌パークホテル（216室）
- ・プレミアホテル・TSUBAKI・札幌（322室）
- ・ホテルマイステイズプレミア札幌パーク（216室）
- ・プレミアホテル中島公園札幌（225室）など



▲ 札幌パークホテル



札幌市内のホテル

○ホテル数	273軒
○客室数	31,700室
○定員数	64,053人

【札幌駅エリア】

- ・JRタワーホテル日航札幌（342室）
- ・京王プラザホテル札幌（493室）
- ・札幌グランドホテル（449室）
- ・ANAクラウンプラザホテル札幌（412室）など



京王プラザホテル札幌 ▶

外資系ハイグレードホテルオープン予定

【すすきの・中島公園エリア】

- ・インターコンチネンタルホテルズ&リゾーツ（149室）
- 2025年10月1日開業予定

【札幌駅エリア】

- ・ハイアットセントリック札幌（216室）
- 2026年夏ごろ

<参考> サステナブルなMICE都市・札幌

13

■ 札幌市の取組

- 「環境首都・札幌」を宣言_2008年
➡ 豊かな自然環境を保全、世界に誇れる環境都市を目指す
- **SDGs未来都市**に選定_2018年
- フェアトレードタウンに認定_2019年
- 札幌市気候非常事態宣言／札幌市気候変動対策行動計画_2021年
➡ **2050年温室効果ガス排出量の実質ゼロ**を宣言し、同計画を策定
- 脱炭素社会実現に向けた取組推進を掲げた「北海道・札幌宣言」_2023年
- **GSTC(Global Sustainable Tourism Council)**に加盟_2024年
- 「**サステナブルなMICE開催のためのガイドライン**」策定_2024年



↑ サステナブルなMICE開催のためのガイドライン（英語版）

■ 札幌コンベンションビューローの取組

- **GDS-Movement（環境配慮の国際的指標プログラム）への加盟**_2016年
GDS-Index（環境指標プログラム）に参加（世界100都市が参加）
2024年の札幌市のスコアは65%（2023年は67%）
- **カーボンオフセットプログラムの推進**
さっぽろ北海道MICE振興協会と連携し、コンベンション参加者の移動や宿泊時に生じるCO2を地域の森で吸収する循環型モデルを構築



GLOBAL
DESTINATION
SUSTAINABILITY
MOVEMENT



↑ カーボンオフセットプログラム